

平成 28 年度 第 2 回健康づくり支援部会 議事録

日 時：平成 28 年 11 月 18 日（木）

第 2 回帯広市健康生活支援審議会審議会終了後 19 時 25 分～20 時 40 分

場 所：帯広市役所 10 階 第 4 会議室

会議次第

1. 開会
2. 会議
 - (1) 前回会議の議事録（案）の確認
 - (2) 平成 27 年度 健康推進課決算について
 - (3) 平成 27 年度 保健事業について
 - (4) 第二期けんこう帯広 21 の進捗について
 - (5) その他
5. 閉会

出席委員：阿部厚憲委員、吉村典子委員、金須俊雄委員、山本勝弘委員、有岡秀専門委員、
（欠席：角谷巍啓専門委員、高橋さきみ子専門委員、高橋セツ子専門委員）

○事務局

お晩でございます。健康推進課の長谷川です。

ただいまから、平成 28 年度第 2 回健康づくり支援部会を始めさせていただきます。

本日の委員の出席は、健康づくり支援部会、委員 8 名中、5 名のご出席をいただいております。出席人数が委員の過半数を超えていますことから、本日の部会は成立しております。

それではこれよりの議事進行につきまして、阿部部会長によりしくお願いいたします。

○部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に、前回会議の議事録の確認について、議題といたします。

この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。

議事録（案）につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

○委員

（なし）

○部会長

なければ、議事録は了承されたものといたします。

次に、平成 27 年度 健康推進課決算について、議題といたします。

事務局から、説明願います。

○事務局

それでは、平成 27 年度 健康推進課決算について説明させていただきます。

まず、資料 1 でございます。事前にお送りしたものに一部修正がありましたので、今お配りしているものをご覧ください。

総事業費は 11 億 6 千 47 万 9,421 円でした。

内訳ですが、まず資料左側、「保健衛生総務費」は決算額 3 億 1 千 981 万 8,607 円でした。

主な事業としまして、「保健衛生推進費」として、健康まつりの運営費の負担、重度心身障害者歯科治療事業及び難病連十勝支部の事業への補助などのほか、「食・運動改善推進費」として、食生活改善推進員と健康づくり推進員の養成及び育成、「公衆浴場対策費」として、市内の公衆浴場の確保と活性化のための各種事業への補助、「訪問看護促進費」として、北海道在宅医療ケア事業団の会費、「健康増進センター管理費」として、大正と川西の室内ゲートボール施設の運営管理、「高等看護学院運営分担金」として、十勝管内 19 市町村で運営している高等看護学院の運営費、「看護師等養成機関確保対策費」として、市内に 2 箇所ある看護師養成機関に対する補助、「帯広厚生病院運営費補助事業費」として、管内 19 市町村による帯広厚生病院の運営支援、「介護老人保健施設整備補助事業費」として、平成 24 年度建設の市内の介護老人保健施設への補助などを実施しました。

次に「保健福祉センター費」は、決算額 4 千 281 万 4,067 円でした。東 8 条南 13 丁目にある保健福祉センターの適切な管理運営に努めてまいりました。

次に、資料右側「予防費」は、決算額 4 億 6 千 902 万 2,524 円でした。

主な事業としまして、「がん検診、健康診査費」として、各種がん検診、市民健康診査、肝炎ウイルス検診などのほか、「予防接種費」として、各種定期の予防接種、「感染症予防費」として、65 歳以上の高齢者及び中学 3 年生、高校 3 年生に対する季節性インフルエンザ予防接種、65 歳以上 5 歳刻みの高齢者に対する成人用肺炎球菌ワクチン予防接種、エキノコックス症検査、「結核予防費」として、結核検診、「健康相談費」として、保健師や栄養士のほか精神科医師や心理相談員などの専門家による相談、「健康教育費」として、各種健康講座、スマートライフプロジェクトの推進、ゲートキーパーの養成などの自殺対策事業、「訪問保健指導費」として、保健師の個別訪問による保健指導、「身体障害者体力向上事業費」として、保健福祉センターでの身体障害者を対象にした身体機能向上を目的としたトレーニング事業などを実施しました。

最後に、「夜間急病診療費」は、決算額 3 億 2 千 882 万 4,223 円でした。

主な事業としまして、「休日夜間急病センター管理運営費」として、指定管理による休日夜間急病センターの適切な管理運営のほか、「救急医療対策費」として、二次救急医療、休日歯科診療業務、急病テレホンセンターなどの運営の委託、補助を行いました。また、昨年度より道東ドクターヘリに加入し、十勝圏域でドクターヘリが運航されています。

以上、平成 27 年度決算の概要でございます。

○部会長

ありがとうございます。何か質問等ありますでしょうか。

○委員

予防費の中の健康教育費は金額が、925万5982円から985万3587円に変わって総額は変わらないのですか。

○事務局

すみません。送付したものの内訳に修正がありましたので、本日配布したものをご覧ください。総額は同じです。

○部会長

総額は4億6902万2524ですね。

○委員

前の資料が違っていたのですね。わかりました。

○部会長

最初の保健衛生推進費は、3つ足しても1000万にならないですが。

○事務局

保健衛生推進費の「その他」の金額を足して総額になります。

○部会長

「その他」の内訳が大事ではないですか。

○事務局

内訳ですね。わかりました。

○部会長

健康まつりもこの位の予算なのですね。

部会長の立場なので発言は控えた方がと思いますが、協会病院の責任者として厚生病院に2億円も出しているのは何故なのでしょう。看護学校もあるのに、なんだか不公平ですね。救急もやっているのになぜ厚生病院ばかりなのでしょう。

○事務局

看護学校には、(市内3つ)全部の看護学校に確保対策費を出ています。

○委員

看護学校にはでているんですよね。

○事務局

そうですね。救急医療についても、ご協力いただいている医療機関（厚生、協会、北斗、第一など）に出しています。

○委員

厚生病院は建設費を出すというお話でしたけれどどうなったのですか。

○事務局

建設費ではなく、運営費補助です。

○委員

審議会のお話の中には説明がなかったので、違うところ（地域医療推進部会）でのお話ですか。そのお金はどこから出るのですか。かなりの額ですよ。新聞に載っていましたけど。

○事務局

そうですね。
お金は、国の特別交付税が主な財源です。

○部会長

3次救急は厚生病院しかやっていませんけれど、他の救急は他の病院もみんなでやっている訳ですし、ちょっと不公平だと前々から思っていたのですけれど。

○委員

（厚生病院への補助が多いのは）農協連の政治力ですかね。

○部会長

帯広市と何かあるのかなっていう。あなた方に聞いても仕方ないですね。

○事務局

決算については、議会で報告して認められています。

○部会長

議会では通ってもここでは通らないですよ。

○委員

話は変わりますが、公衆浴場事業、ふれあい銭湯補助金について具体的に教えてください。

○事務局

市内の公衆浴場で中学生以下の子どもとその保護者が一緒に来た時に、子どもの分が無料になる日をつくっている銭湯に、月1回2万円の補助を出しているという事業です。活性化が目的です。

○委員

子どもだけですね。高齢者の公衆浴場の対応はありませんか。

○事務局

今のところはありません。

○委員

話が全く違うところで申し訳ないですが、とても関心をもっているのですが、グリーンプラザのお風呂が、ボイラーが故障したので休止したと看板がでていますよね。あの表現だと、ボイラーが直るまで我慢してくださいということですよ。しかし、話を聞くと直すつもりはないとのこと。

○委員

きちんと整備するには、修理したり国の基準に合わせた施設にするには、経費がかかるから、再開の見通しはない、という気配です。

○委員

そのままにしておくということ自体がどうなのだろうということと、理由があってそうなっているのなら、それをきちんと説明するとか、どうなるということの説明が一切なし。普通の商店でも、閉店しますのでこれまでのご愛顧ありがとうございましたぐらいの挨拶くらいはする。何もなしなのです。直すのか直さないのかも書いてない。何も書いてない。

○委員

8,000万というお金は全くないですよ。

○委員

問題はそういうことではなくて、必要性、法令上の規定なのです。そのためにあそこは温泉なのです。

○委員

基本的には、リハビリのための温泉なのです。

○委員

そうなのですが、少なくとも高齢者福祉という観点から年間 1 万人以上入っているのです。実質的には百何十人といっていますけれど。

これからどうするのかな、ということ。こういう公衆浴場があるからといって、9 月からずっと閉めたままなのですよ。入っていた人たちがどうしているのか心配です。1 回 100 円ですよ。

せっかくこういうの（公衆浴場）があるのだったら、ちゃんとリンクするとか、とりあえずそういうことを考えられないのかなと思って。止まったままです。入れないだけ。

余計なことをいって申し訳ないですが、これは社会課の主管ですよ。

それで説明していただく機会をつくってほしい。お風呂がこうなっていますから、高齢者が使うような、そういう対応してもいいんじゃないかな、子どもは子どもですから。

すみません。余計なこと言って。

○部会長

夜間急病センターの収入というのは別会計なのですか。

○事務局

夜間急病対策協会というところが指定管理となっていますので、診療費はそちらで会計をしております。

○部会長

別なところにいるということですか。

○委員

医療費は診療報酬ですよ。

○事務局

決算はあくまでも体制整備と管理運営の分だけです。

○部会長

売上げが多かろうが少なかろうが関係なく夜間急病センターには 3 億円のお金が出ているということですね。

○委員

さっきの資料をみていたら、帯広以外の方の利用がかなり多いのですね。

○部会長

そうですね。3 割くらいが市外からなのですね。

その点は、急病センターの運営会議の方で問題にはなっていましたね。

○事務局

そうですね。運営会議を開いておりますので。

○部会長

会議は開いていますよね。問題解決になっているのか、報告しているだけですかよね。
先ほどの私の発言には、あとで答えていただけるのでしょうか。

○事務局

先ほどの、その他の金額、厚生病院の運営費、看護学校の分担金について、後日お答えします。

○部会長

本来、これだけのお金を出したのだから、どれくらいの効果があったのか、費用対効果を出さなければいけないと思うが、出せないのでしょうかね。

○委員

帯広市内で就職する方は多いのですか。

○部会長

看護学校ですか。十勝管内でということになっていますね。帯広市だけではないですね。
実は町村からも補助金が出ていますので、帯広だけではないみたいですね。

○事務局

看護学校は、十勝管内全部から分担金を集めて運営しているということですね。

○部会長

他に質問はありませんか。
どういう結論をだせばいいのでしょうか。

○事務局

先ほどのご質問には次回の時にお答えしたいと思います。持ち帰りますので相談させてください。

○部会長

よろしくお願ひします。
では次の議題にうつります。
平成 27 年度保健事業について、説明をお願いします。

○事務局

それでは、私の方から平成 27 年度保健事業についてご説明させていただきます。

資料 2 の 1 ページ目の「1.保健福祉センターの利用状況」をご覧ください。

事業等の利用状況であります。表の一番下に記載しています合計数の利用者の推移をご覧ください。平成 25 年度、26 年度に比べ、平成 27 年度は利用件数、利用者数とも、若干減少しております。育児サークルの減少により利用が減っていることが主な要因です。

各種相談の利用状況では、平成 25、26 年度に比べ、利用件数が少なくなっています。これは、ことばの教室が、事業の見直しにより、市内 10 ヶ所の発達支援事業所で利用できるようになったため、保健福祉センターのことばの教室利用者が減ったことが主な要因です。

次に、「2.感染症などの予防」をご覧ください。

予防接種の実施状況では、平成 26 年度 10 月から定期接種となりました水痘ワクチン、三種混合から四種混合への変更が反映されております。他は、例年通りの推移となっております。

次に、2 ページ目をご覧ください。

結核検診の実施状況につきましては表のとおりとなっております。

インフルエンザ予防接種の状況ですが、中 3、高 3 と 65 歳以上の高齢者に対する接種事業を実施し、実績は記載のとおりとなっております。

成人用肺炎球菌予防接種は平成 26 年度 10 月に開始となり 65 歳以上 5 歳刻みの年齢の高齢者を対象に実施しています。対象年齢がわかりづらいこと等から、対象者へ個別に周知しています。実績は記載のとおりです。

エキノコックス症検診の実施状況については、表をご覧ください。

2 ページ目中段、「3. 生活習慣病の予防」をご覧ください。

健康教育の実施状況では、働き盛りの人への健康づくりを進め、年々企業からの依頼が多く、回数・人数ともに増加してきています。

健康づくり講座・教室では、表のと通りの事業を実施してきております。

3 ページをご覧ください。

健康相談、訪問指導、身体障害者体力向上トレーニング事業につきましては、表のとおりとなっておりますのでご覧ください。

次に、検診の実施状況であります。それぞれの検診で増減ありますが、全体としては横ばいとなっております。(H26 35,747 人 H27 36,938 人 前年比 103%)

市民検診・健康診査の保健指導と、4 ページ健診事後指導についても記載のとおりであります。

次に 4 番目、自殺対策では、自殺者の実態把握を行った「地域分析」の結果をもとに、平成 26 年度から自殺対策講演会・若年女性向け講座に取り組んでおります。平成 27 年度は保健福祉センターで行うゲートキーパー研修会のほか、地域に出向いて講演するゲートキーパー講座を実施しております。

最後に、救急医療体制に関する実施状況であります。帯広市では、夜間・休日等における医療不安の解消と急病者の発生に対処するため、休日夜間急病センター運営事業や、医療機関の協力を得て在宅当番医制や二次救急医療体制を確立しております。

平成 27 年度保健事業については、説明の通りです。以上でございます。

○部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご発言のあるかたはいらっしゃいますか。

○部会長

東の保健福祉センターのお話ですよ。

○事務局

はい。そうです。

○部会長

利用者が伸びないっていうのは。平成 25 年から 3 年間、やっている内容については変えてないのですか。

○事務局

いいえ。いろいろ変えています。先ほどいいましたように、ことばの教室の相談できる場所が移動したり、このセンターで行われる事業が地域で行われるようになったり、育児サークルさんもいろいろな拠点ができています。身近なところで集まっているサークルさんもありますので。

○部会長

それに代わって、空いたスペースや空いた時間を別のことで進めようという努力はしているのでしょうか。

○事務局

貸館事業もやっております。保健事業ではないのでここには掲載されていません。

利用に関しては、乳幼児健診なども保健事業には載せていませんけれど、親子連れで遊びにきたりされています。

○部会長

駐車場のスペースはいっぱいありますが、車を持っていない方は。

○委員

場所が悪いですよ。会議をするにしても、あそこでやりたいとは思わないというか。遠いですよ。

○委員

バスのルートはありますか。

○事務局

はい。あります。保健福祉センターがオープンするときにバス会社さんと相談してバス停をつくって

いただいた経緯はあるときいております。

利用者はあまりいないかもしれないですね。

○部会長

走ってないから利用しないのです。何本走っていましたか。

○事務局

2時間に一本くらいですね。

あとは協会病院さんの前からとか、そちらの方からですね。

○委員

車を使うけど、遠いですよね。

○部会長

利用者が増えない理由の一つは交通の便ですよね。

なんとかならないのでしょうかね。せつかくのあれだけのいい施設なのに。

○委員

グリーンプラザの方がはるかにいいですよね。あそこは年間14万から15万くらい使うそうです。

2倍以上確実に多い。施設としては、むこう（グリーンプラザ）の方がいいのです。

○委員

帯広市内も100円のバス走っていますよね。何バスっていうかわからないのですが。ああいうルートに入れてもらうのは、無理なのでしょうか。100円くらいですか。あまり乗ったことがないので。

○部会長

不便で乗る気にならないですから。事前に予約しておかないと、乗れないですよね。

○事務局

どちらかと言うと、(保健福祉センターは) 常時何かをやっている、ふらっときて、ふらっと帰れる館、そういう形態ではなくて、乳幼児健診なら乳幼児健診がある日に対象者の人がくるとか、トレーニング事業ならトレーニング事業に来られる方がくるとか、目的があってくるので、例えば健康まつりのように常時イベントをやっていて、一般の方がふらっとくるということではないですね。

○委員

たとえば、カフェテラスみたいなものもありますか。

○事務局

交流ルームといって自由に飲食できるスペースはあります。

○委員

そういうことではなくて、コーヒーが飲めるとか食事ができるとかっていうのはありますか。

○事務局

そういう機能はないです。

○委員

そうですね。

せっかくそういうものを作っておきながら、休憩場所とかお茶を飲む場所とか、そういうものがないこと自体来館者を呼べないということになるのではないですか。

グリーンプラザは典型的なのですよ。なにもないですよ。

食事する場所もないのです。図書室に「ここで飲食したらだめ」って書いてあるのです。

来た人たちがその目的だけではなくて、休めるとかコーヒーが飲めるとか、そういうスペースがあるかどうかということも一つの（利用の）動機なのでは。ここも同じではないでしょうか。

昔の六中のあと、あそこの方がはるかに、使い勝手がいいかどうかは別だけど、食事もできるし、コーヒーも飲めるし、だれかいるし。だから、こっち（保健福祉センター）のほうだってもっと有効な活用できるんじゃないかなという気がしています。

そういうことを、利用者の意見をまとめるということはしているのですか。そういうことを聞く機会を持っていますか。

○事務局

今は特にはないです。

○委員

なぜなのだろうか、そういうこともしないんでしょうか。どうやって利用者の知恵を集めるのですか。発想を変えた方がいい。

○委員

意見箱のようなものを設置したりとかはどうでしょう。

○委員

意見を入れてもいいけど、それに答えるのかを保障しなければならないのですよ。利用者会議みたいなものを開いて。とかちプラザはけっこううるさいですよ。

運営委員さんがいろいろな意見を言えるし。（保健福祉センターは）運営委員がいるわけではないですよ。どうやって意見を吸収していくか。

○委員

市役所にはありますよね。意見入れるところ。目安箱みたいな。

○委員

利用者にどう奉仕するか。そっちのことを考えることが大事じゃないかと思うのです。市の関係の建物はそういうことが抜けている。

○部会長

事務局から何かありますか。

○事務局

ご意見ありがとうございます。

○部会長

次回、回答してください。意見を反映してほしいと思います。

○部会長

次に、第二期けんこう帯広 21 の進捗について、議題といたします。

○事務局

それでは私から説明させていただきます。

資料 3 をご覧ください。

第二期けんこう帯広 21 は、「第六期帯広市総合計画」の分野計画として位置づけ、本市の保健予防の推進施策の柱としており、計画の期間は平成 25 年度から平成 34 年度までの 10 年間です。

「市民一人ひとりが、主体的に生活の質の向上に努め、健康づくりを進める社会環境を整備することにより、健康寿命を延ばし、健やかで心豊かに生活できるまちづくりを目指す」こととしています。

「糖尿病対策」、「がん対策」、「こころの健康対策」という 3 つの重点課題をおいており、各世代別健康づくりの目標についてまとめています。

平成 25 年 4 月よりスタートし、三年目の進捗管理です。平成 26 年度実績、平成 27 年度実績を記載しております。目標にむけた主な取組と関連事業につきましては、各課ごとに記載しました。

目標項目 35 項目中、21 項目が毎年進捗を管理する項目で、健康推進課、各関係課、帯広保健所からのデータとなります。

平成 27 年度の実績による進捗結果は、前年度と比較して横ばいな傾向にあります。

特徴的なこととして、糖尿病については、糖尿病性腎症による新規透析導入患者数は H26 年度と比較し、増加しております。糖尿病有病者、血糖コントロール不良者も同じくわずかながら増加しております。

次のページのがん対策における指標については、前年度と比較して全て受診率は低下しております。

こころの健康に関する指標におきましては、自殺者数は前年度と比較し減少しています。

妊娠中やこどもの頃の健康については、低出生体重児は前年と比較し減少していますが平成 22 年との比較では多い現状であること、また、飲酒をする妊婦が前年と比較し増加しています。妊娠中の喫煙、3 歳児のう歯については改善しています。

こども世代の健康では、肥満傾向にある学童は男子は増加傾向、女子は減少傾向にあります。

社会環境の整備として 20 番は、スマートライフプロジェクトに賛同する企業団体の数となります。10 年間で目標 50 社に対し、平成 27 年に 38 社の登録をいただいております。

栄養食生活では、野菜の摂取量については横ばい状態です。

歯・口腔の健康については、40 歳代における進行した歯周炎を有する人は増加し、35～44 歳で喪失歯のない人は減少しております。60 歳代における進行した歯周炎を有する人は減少しております。

第二期けんこう帯広 21 についての報告は、以上です。

○部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

これは、東の保健福祉センターが推進しているものなのですか。

○事務局

これは、健康増進計画ですので、健康推進課が策定して、市民、帯広市の関係各課、関係機関と連携して進めています。

○部会長

糖尿病は日本中で増えていますね。コントロールが難しい。

○委員

甘いものですか。

○部会長

甘いものばかりでなく、食べ物が余ってるのですね。

逆に若い女性がダイエットで痩せている。戦後、最も女性が痩せているといわれていますね。

○委員

子どもも二極化していますよね。肥満傾向の子と貧困による食の問題。子ども食堂などが、増えてきていますよね。

○委員

子どもの家庭の実態が見えるといいですね。飽食状態で太っている場合もあるし、一方では貧困により炭水化物ばかりが多くなって肥満になる傾向もあるかもしれないですね。

○部会長

そういう調査をするのは、行政の仕事ではないですか。

○事務局

国が国民栄養調査を行っておりますので結果や傾向について把握しています。課題があるなどは感じていて帯広市がどうなのかも知りたいところです。

○委員

先ほどのお風呂の件ですが、保育所に通っているお子さんでお風呂に入っていない子がいる。子どもが多いとお金がかかるから銭湯に行けない。子どもが無料になるということを広めた方がいいのでは。

○委員

子どもがお風呂に行くのは大変。騒ぐし周りの迷惑になるから行けない。それが敬遠の理由になっている。お金の問題だけではない。

○委員

実際にお風呂に入っていない子どもたちがいるのですね。

○委員

だから、せっかく公衆浴場の事業があるのに、本来必要なところに届いているのか、親子のふれあい銭湯もいいけれど。

○事務局

毎日、無料になるのではなくて、月に1回、公衆浴場さんが独自にすこやか銭湯の日を決めています。

○委員

それでは、本当に必要としているお宅に切符のようなものを配るとかはできないのですか。困っているお宅はあるわけですし。(衛生面で) 排除されていかなければいいのですが。

○委員

平等、平等というけれど、本当に必要なところに行き届くことが必要ではないですか。

○部会長

保育所に入れる位なら、ある程度の所得はあるのでは。

○委員

生活保護の方は(保育料が) 無料です。

○部会長

その他、ないですか。

○委員

ランチ&運動つき健診教室を何年か担当させてもらっているのですが、最初にけんこう帯広 21 についてお話するのですよね。その時に参加者の方がほとんど、「けんこう帯広 21」があるということを知らないのですよね。もっと、PR をした方がよいのではと思います。例えば年代別のリーフレットも作っていますよね。それを広い範囲に行きわたる方法を考えてみるとか、広報も一回きりではなくて、短い言葉でもいいから市民の目に触れるような企画も必要ではないかと思います。そしてその中で目標値がわかり、目標値に向かって市民も協力していけるような体制がとれていけばいいのではないかと感じています。

○事務局

今年も広報に特集ページを設けて周知しているところですが、なかなか行き届いていないということですね。

○委員

その月の広報を見なかったということもありますので、何回かですね。リーフレットにしても、コミセンとか福祉センターにおいているだけでは、そこに行かない人には目につかないということになりますので、配慮が必要かと思います。

○事務局

ありがとうございます。

○部会長

この結果から、34 年度に向けて方向修正をしないと目標達成が難しいものもあると思うが、見直しはするのですか。

○事務局

その通りです。10 年間という長い期間の計画ですので、来年度中間評価をする予定になっておりまして、その中で市民アンケートを実施する予定になっています。その結果をもって、市民の方や関係機関の方等で構成するワーキンググループで検討して計画の軌道修正、目標の見直しをしていきます。

○部会長

今年はやる気はないですか。

○事務局

中間年と決めているので、来年度ということになっています。そのために、この部会に毎年進捗を報告させていただいています。

○部会長

ここで意見がでたら、それは反映されるのですか。

○事務局

その意見も含めて中間で検討していきます。

そして一つ付け加えさせていただきたいのが、先ほど委員がおっしゃっているように、市民になかなか浸透しにくい、計画自体の概念が伝わりにくいということがあります。例えばがん検診についても、色々な機会をつくってはいても、まだまだ知らないという方や、職場で検診を自動的に受けられた方が、退職したとたん受けられなくなったとか、地域の情報を初めて広報で知る等の話はよく聞いています。いろいろな事業の中でも地域に出向いて直接説明する出前健康講座を行っております。そのような事業をどんどん活用していただきながら普及啓発をすすめていきたいので、身近な方に委員の皆様からも声かけをお願いいたします。

○部会長

保健福祉センターの利用、使い勝手は見直した方がいいのではないですか。

○事務局

使い勝手ですか。それについては持ち帰らせていただきます。

○委員

私は1年に何回か伺うだけですけれど、ロビーなどは閑散としていませんか。

○事務局

保健福祉センターは事業で動いている館ですので、がん検診や健康づくり事業、乳幼児健診などでたくさん来館されています。事業がないときは、相談やお子さんを連れた方がプレイルームに遊びに来ています。ロビーは閑散としていると思います。

○部会長

せっかくの施設なので、使い勝手のよいものにしてほしいですね。

○委員

管理費がこんなにかかるということに驚いています。

○委員

利用料が高いときいたことがあるのですが。

○事務局

利用料については、その施設で決まっています。

○委員

年間 4200 万円もかかるのは、何にかかっているんですか。

○事務局

保健福祉センターの維持管理のための管理業務員の人件費も入っています。

○委員

電灯や暖房料など光熱費も入っていますよね。

○委員

使い勝手のいいように、運営の仕方を考えてほしいですね。

○部会長

別になければ、質疑を終了いたします。次に、委員の皆さまから何かありますか。その他、事務局から何かありますか。

○事務局

前回の健康づくり部会で、災害対応についての話題が出ていました。

災害については、担当部局の部会で協議されています。前回、話題になった部分について参考資料をお配りしておきます。

○部会長

何かご質問やご意見はございますか。

○委員

(なし)

○事務局

貴重なご意見をありがとうございました。

次回の健康づくり支援部会の日程であります。来年 2 月を予定しております。

委員、専門委員の皆様には改めてご案内をさせていただきます。

なお、来年度は、第二期けんこう帯広 21 の中間評価と、第 7 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定が控えております。委員、専門委員の皆様は、色々と協議していただくこととなりますが、よろしくお願いたします。

以上で予定されている議事は終了いたしました。本日は、これで閉会といたします。
お疲れのところありがとうございました。